

プレFD段階におけるパターン・ランゲージの活用と知識生産(2) ——私たちはパターン・ランゲージを媒介として何を考えたか

山口圭治、宇田川努、江沼英篤、鍛冶暢宏、近咲子、
田中志保、柘植雅則、中島亮太郎、廣瀬道代、堀田雅夫、伴野崇生
社会構想大学院大学 実務教育研究科

1. 本発表の目的

本発表の目的は、「実務家教員のためのパターン・ランゲージ—新しい道を切り拓いていくための24のことば—」(実パタ)を用いたワークを通じて、発表者らが「パターン・ランゲージを媒介として何を考えたか」を検討することである。

2. 本発表の背景

社会構想大学院大学のWebサイト(実務教育研究科「実践知を学びへ実装するために」)には以下のようにある。

科学技術の急速な発展、グローバル化、人生100年時代の到来、働き方改革など、社会は変革のただなかにあり、私たちはこれまでの考え方や知識だけでは解決できない多様な課題に直面しています。これからの社会では、自らが今向き合っている実務領域の専門家となるだけでなく、これまでの経験や社会に散在する知識を、新たな知の体系へと昇華させ、それを伝達・継承する能力が、あらゆる領域において求められています。

そのためには、経験や既存の学問領域を深めるにとどまらず、実践と理論を融合し、他者に伝達可能な新たな知を自ら作り出すことが必要です。そして、現代社会とその課題を理解したうえで、それを社会へ実装するための教育・学習プログラムを考案し、実践しなくてはなりません。

発表者らは社会構想大学院大学実務教育研究科に在籍しており、実パタを用いたワークを行ったのも実務教育研究科の設置の趣旨に基づいたものであると言える(3.で詳述)。

3. 分析対象

本発表における分析の対象は発表者ら自身が書いたリアクションペーパーの記述である。具体的には以下の手順によって得られた記述を対象とした。まず、最終著者(伴野)がファシリテーターとなって実パタを用いたワークを行った。実パタは24のことば(パターン)からなるが、その中から1つから3つのことばを選び、なぜそれを選んだのか理由を考える個人ワークを行った。その上で、出席者7名が3人と4人の2つのグループに分かれ、選んだ理由や個人ワークの感想の話し合いを通じて発表者らが考えたこと、感じたことをグループでシェアし、その後それを全体でシェアをするという形でワークは進んだ。ワークはおおよそ2時間で、終了後にリアクションペーパー(文字数の目安は500字程度)を書き、最終著者(伴野)に提出を行い、最終著者はそれを取りまとめた。

欠席した3名についてはワークの様子の録画を視聴し、同じように個人ワークを行い、全体のシェア部分を視聴した上で同様にリアクションペーパー(目安の文字数は500字程度)を書き、最終著者(伴野)に提出した。なお、グループワーク部分の録画は欠席者には公開されていない。

ところで、発表者ら所属する実務教育研究科は「実務教育」という名を冠してはいるが、必ずしも全員が高等教育機関で実務経験をもとに教育実践を行う、いわゆる実務家教員を目指している、あるいは実務家教員として現在教えているとい

うわけではない。だが、「これまでの経験や社会に散在する知識を、新たな知の体系へと昇華させ、それを伝達・継承する」「実践と理論を融合し、他者に伝達可能な新たな知を自ら作り出す」「現代社会とその課題を理解したうえで、それを社会へ実装するための教育・学習プログラムを考案し、実践」することを目指している点では、共通している。その意味で10名とも「実パタ」との親和性は高い。また、実務教育研究科は専門職学位課程(修士課程に相当)であるが、修了後に教えることが想定されているという意味で、博士後期課程ではないが、実質的にプレFD段階にあたると言える。

4. 分析方法・分析結果

リアクションペーパーから「何を考えたか」に直接関わらない部分(例:教員への謝辞 等)を削除し、表記のゆれ(例:パタンランゲージ、パターンランゲージ、パタン・ランゲージ 等)を統一した上で、KHcoder を用いてテキストマイニングを行

った。結果を図1に示す。図1が示しているように大きく10の塊を得ることができた(具体的な考察はポスター発表時に提示)。

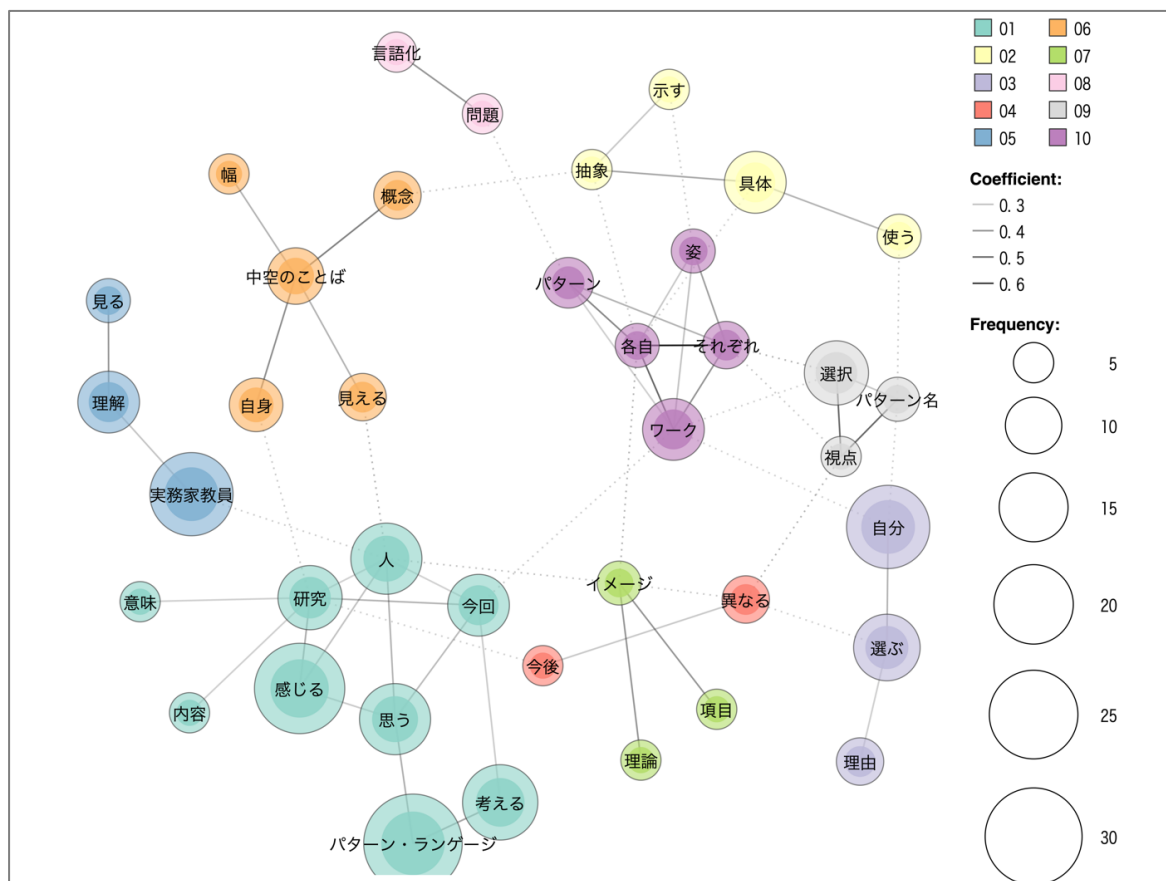
5. まとめと今後の課題

以上、発表者らを対象として「私たちはパターン・ランゲージを媒介として何を考えたか」について検討を行った。今後の課題は、実パタの効果検証をより具体的な形で行うことである。

参考文献:

社会構想大学院大学 Web サイト「実務教育研究科」<<https://www.socialdesign.ac.jp/professional-education/>> 2023年11月2日最終閲覧。

伴野崇生・正井美穂・阿部有里(2023)「実務家教員のためのパターン・ランゲージ—新しい道を切り拓いていくための24のことば—」『社会構想研究』5(1),pp.29-88



出所: KHcoder を用いて発表者らが作成